

## 第1回意見書に対する事務局の考えについて

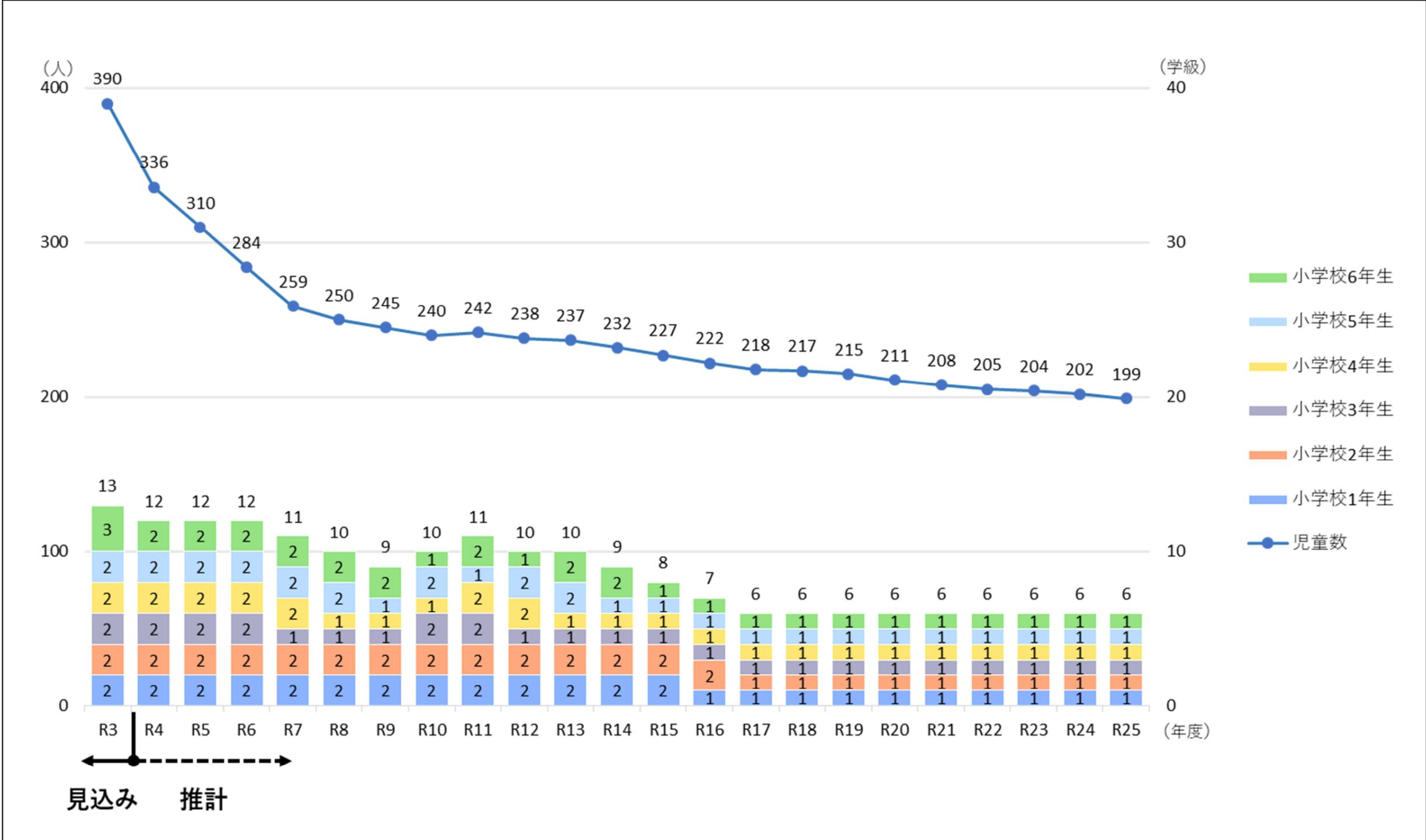
No.	寄せられたご意見等	事務局の考え
1	後谷小のある地域の小規模校解消を早期に検討されるよう望みます。	前間小及び後谷小のある地域の学校の小規模化の解消は、三郷市教育委員会としても喫緊の課題として捉えております。今後、本審議会において、小規模化の解消に向けた検討を進めていきたいと考えております。
2	学校の主役は子ども達であると思いますが、意見を聴くことはありますか。	本審議会では、それぞれの代表者や知識経験者として選出した委員の皆様にご意見を伺い、本審議会の答申後に、教育委員会としての考えをまとめた上で、パブリック・コメントを実施したいと考えております。パブリック・コメントでは、市内に住所がある方や市内の学校に在学する子ども達等幅広く意見を提出することができます。なお、令和元年6月、市内の各小学校の5年生（現6年生）及びその保護者に、学校の適正規模・適正配置についてのアンケートを実施し、望ましいクラス数や許容できる通学時間等について回答をいただきました。
3	<p>(1) 審議会のスケジュールについて、時期や内容等は、どのように予定していますか。</p> <p>(2) 3校（前間小・後谷小・丹後小）の児童数や学級数の将来推計はどうなっていますか。</p>	<p>(1) 月1回のペースで審議会を開催し、学校の小規模化の解消に向けた学校統合等の案もお示ししていきたいと考えております。その後、審議を進め、7月頃を目途に答申を頂きたいと考えております。</p> <p>(2) 3校の児童数及び学級数の将来推計は、第2回審議会にお示ししたいと考えております。</p>

4	<p>後谷小は開校から29年が経ち、この3月までの卒業生の累計は、約1,500名を数えます。卒業生の母校に対する愛情は、強いものであると思います。そこで、廃校活用の方法を教えてください。(例：校舎は市民センターとして、体育館は社会体育施設として利用する等)</p>	<p>学校統合等については、今後、審議会の中で、どの学校をどこに統合していくかを審議していくこととなります。なお、統合後の廃校活用については、使用しなくなる学校が決まってから、教育委員会だけでなく、市全体で考えていくこととなります。</p>
5	<p>資料とても参考になりました。丹後小も是非、視野に入れて検討をお願いします。分かりやすく的確な資料の作成ありがとうございます。</p>	<p>審議委員の皆様が、様々な視点から議論できるような資料を提供したいと考えております。丹後小については、現在、12学級以上の標準規模校ですが、将来的には小規模校になる推計であることから、この点も視野に入れて検討を行ってまいります。</p>
6	<p>(1) 早稲田団地に入居されたのは、団塊世代の方々が中心であったため、現在では学齢児童のお子さんを待つ方々が少なくなってきました。</p> <p>今後、早稲田地区に新しく建設されるマンションや戸建てもスペースの関係上あまり増えていかないと想定します。それに伴い、児童数もあまり増加せず、むしろ減少傾向であると思います。</p> <p>このような要因を考えれば、小学校の統合は、必要不可欠の状況にあると思います。</p> <p>(2) 児童数の推移を見ますと、前間小、後谷小では右肩下がりとなっていますが、丹後小では平成23年から平成28年の児童数が600人超となっています。どのような要因が考えられますか。</p> <p>児童数の増加要因が判れば、今後の対応がしやすいかと思えます。</p>	<p>(1) この地域の小学校は、主に団塊ジュニア世代の児童急増に対応するために整備されましたが、その後は児童数が減少しており、今後もその傾向は続くものと見込まれています。</p> <p>集団生活や学習の中で豊かな人間関係の構築や社会性・協調性を育むためには、クラス替えができる適正な規模の中で学べる教育環境を提供していくことが望ましいと考え、学校統合等の検討に着手したところでございます。</p> <p>(2) 三郷市では、平成16年度に小・中学校の学校選択制を導入し、平成24年度に小学校の学校選択制を廃止しました。平成23年度から平成28年度の丹後小の児童数については、平成23年度までにこの制度により近隣の学区から丹後小に入学した児童数の影響を受けているものだと思います。</p>

7	<p>混乱が少なくなるよう、事前説明やネットを活用した情報の公開を行う等、保護者や子ども達、地域の方々とのコミュニケーションを密にさせていただけたらと思います。</p>	<p>本審議会で学校統合等を検討することについては、丹後小・前間小・後谷小の学校だより3月号にてお知らせしました。審議会の会議録等については、今後、市ホームページへ掲載していくと共に、学校での説明会やパブリック・コメントを実施したいと考えております。</p>
8	<p>(1) かつて大規模校であった当時の全盛期と比較すると、現在から将来にかけての児童数は、寂しいかぎりです。児童により良い環境をより早く整備することが、行政や大人の責任であると考えます。</p> <p>(2) 今後、35人学級が進められるため、3校同時の統合は厳しいと思います。北郷小の例もありますが、今回は、丹後小を含めないで学校統合を考えてはいかがでしょうか。</p>	<p>(1) かつて大規模校であった前間小は、令和2年度の児童数が193人であり、平成3年度の児童数1,310人の1/6以下になっております。児童により良い教育環境を提供するため、今後、本審議会において学校統合等の検討を進めてまいります。</p> <p>(2) 35人学級編制の導入によって、同じ児童数であっても学級数が増えることもありますので、今後、審議会で将来の学級数を示す際は、35人学級編制を想定した資料も示していきたいと考えております。学校統合等については、審議委員の皆様の意見も伺いながら方向性を決めたいと考えております。</p>
9	<p>資料には、特別支援学級を除いた学級数が記載されています。学校統合した場合に教室数が不足することはありませんか。</p>	<p>特別支援学級分として想定している学級数及び教室数は、あらかじめ差し引き、学校統合した場合に特別支援学級分の教室数が不足しないよう配慮しています。</p>
10	<p>前間小の児童数が平成27年度から微増している原因は、転入によるものですか。</p>	<p>三郷市では、平成16年度に小・中学校の学校選択制を導入し、平成24年度に小学校の学校選択制を廃止しました。平成27年度からの前間小の児童数については、この制度の廃止の影響を受けているものだと思います。</p>

# 児童数と学級数の推計（丹後小）

資料1-1

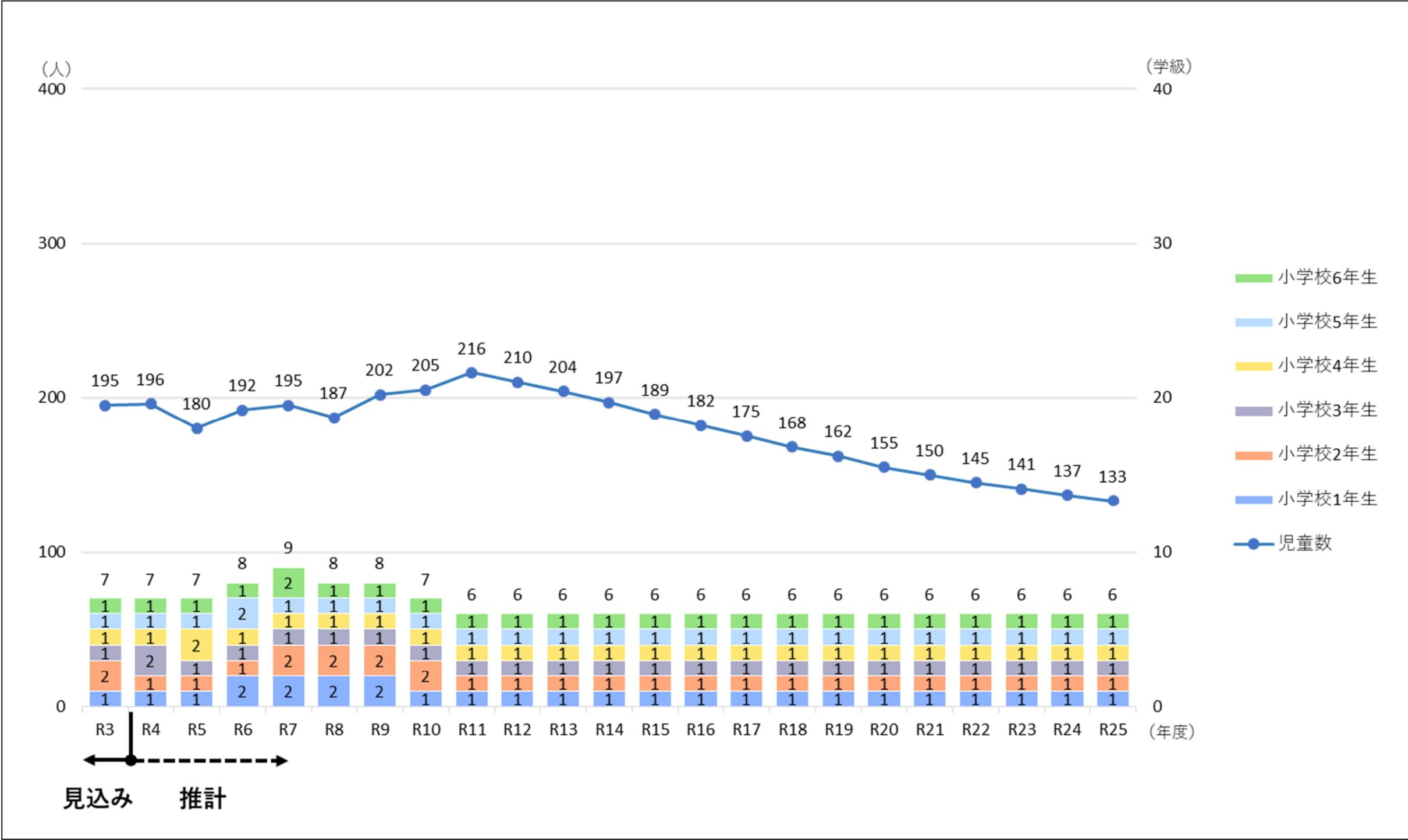


1 学級数について  
特別支援学級分を除いたものとする。

2 見込みについて  
令和3年3月時点で把握している児童数及び学級数を示す。

3 推計について  
三郷市立小・中学校教育環境整備計画（令和2年3月改定）に記載されている児童数及び学級数を示す。

# 児童数と学級数の推計（前間小）

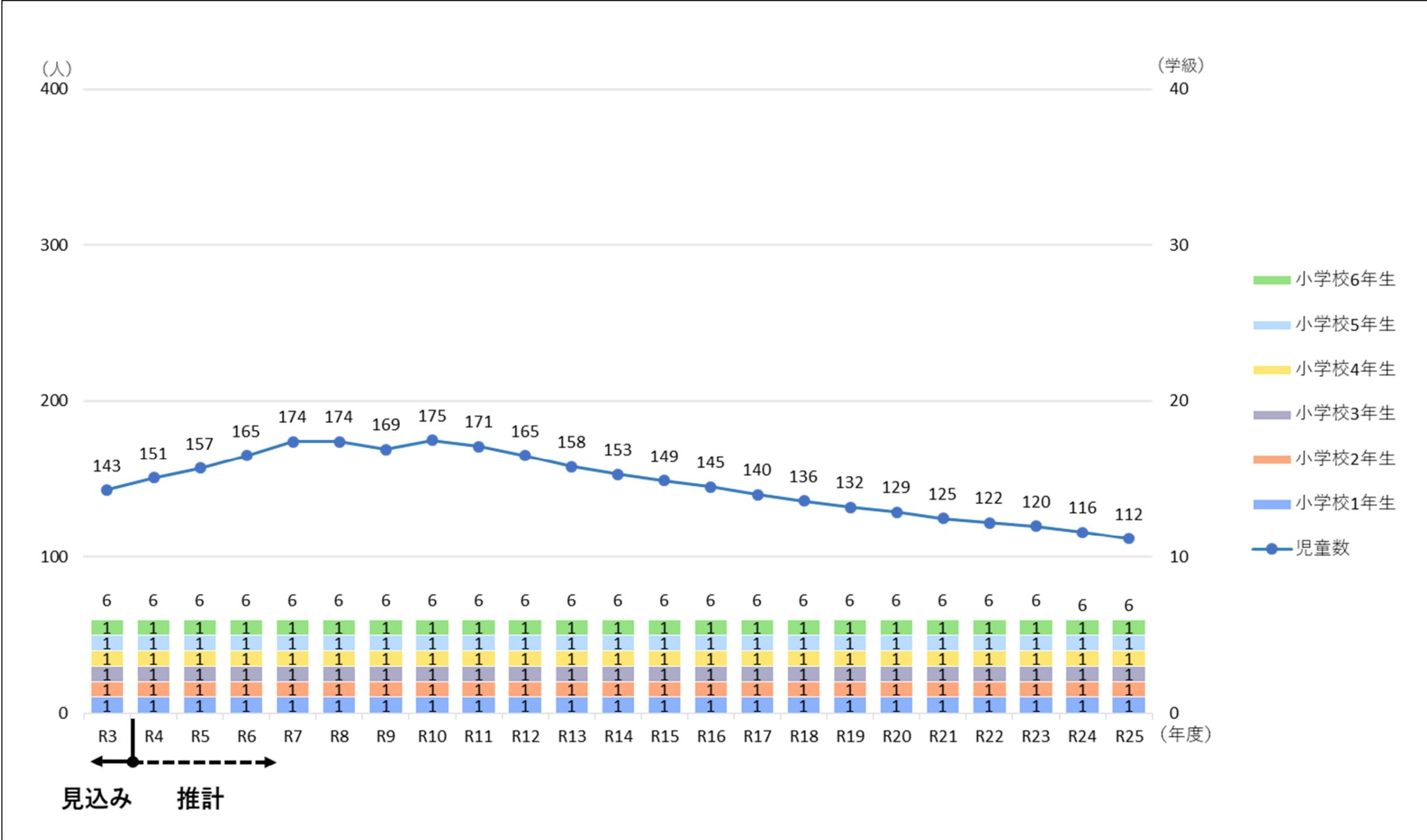


1 学級数について  
特別支援学級分を除いたものとする。

2 見込みについて  
令和3年3月時点で把握している児童数及び学級数を示す。

3 推計について  
三郷市立小・中学校教育環境整備計画（令和2年3月改定）に記載されている児童数及び学級数を示す。

# 児童数と学級数の推計（後谷小）



1 学級数について  
特別支援学級分を除いたものとする。

2 見込みについて  
令和3年3月時点で把握している児童数及び学級数を示す。

3 推計について  
三郷市立小・中学校教育環境整備計画（令和2年3月改定）に記載されている児童数及び学級数を示す。

## 小規模校のメリット・デメリット

(文部科学省「学校規模によるメリット・デメリット(例)」)

	メリット	デメリット
学習面	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人に目が届きやすく、きめ細かな指導を行いやすい。</li> <li>学校行事や部活動などにおいて、一人一人の活動機会を設定しやすい。</li> <li>教材や教具を一人一人に行き渡らせやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な考え方に触れる機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。</li> <li>集団活動に制約が生じやすい。</li> <li>多様な学習・指導形態をとりにくい。</li> </ul>
生活面	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒間の人間関係が深まりやすい。</li> <li>学年内、異学年間の交流が生まれやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。</li> <li>男女比に偏りが生じやすい。</li> </ul>
学校運営面	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員間の意思疎通、連絡調整が図りやすい。</li> <li>学校が一体となって活動しやすい。</li> <li>地域の協力による郷土の教育資源を最大限に生かした活動が展開しやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経験や教科等の面で、バランスのとれた教職員配置をとりにくい。</li> <li>中学校では各教科の免許をもつ教員を配置しにくい。</li> <li>教職員間でのOJT、情報交換、相談や協力が行いにくい。</li> <li>教職員に複数校務が集中しやすい。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者や地域との連携が図りやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>P T A活動等での保護者の負担が大きくなりやすい。</li> </ul>